

平成 28 年 4 月 21 日

大学の世界展開力事業「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」平成 27 年度外部評価報告書

長崎大学
片峰 茂

はじめに

本事業は、海外大学との大学間交流や国際的教育・キャンパス環境整備など大学の世界展開の観点で高い実績を有する神戸大学と大阪大学が、それぞれ医学保健分野で交流実績を有するインドネシア 3 大学、タイ 2 大学の ASEAN トップレベル大学とコンソーシアムを形成することで連携・協働して、同分野におけるグローバルリーダーの育成を目指すものである。平成 27 年度は、5 年計画の 4 年目にあたる。

学生派遣について

日本人学生派遣は、学部生の 4 週間の病院実習プログラムと大学院生の 3-6 月の研究従事プログラムの二つの単位認定プログラムが実施されている。一方、単位認定プログラムについては、病院実習プログラム（4 週間）では、神戸大学医学部医学科学生 16 名が 7 大学に、保健学科学生 5 名が 2 大学に派遣され、大阪大学医学部医学科学生 2 名も 1 大学に派遣された。派遣学生総数は 23 名と計画を若干下回ったものの、年々着実に拡大している。大学病院のみならず民間病院や訪問診療の見学を通して医療現場での異文化理解や国際医療への志の涵養等に成果を上げている。研究従事プログラム（3-6 月）においては、予算減額の影響で神戸大学医学研究科及び大阪大学からの大学院生派遣は実現できなかったものの、神戸大学保健学研究科 4 名が 4 大学に派遣され、日本では見ることのできない熱帯感染症の調査研究に従事し、英語コミュニケーション力を磨くなどの成果を上げている。

さらに、神戸大学保健学研究科は、ガシャマダ大学で開催された災害に関する学術セミナーに教員 4 名とともに大学院生 4 名を派遣した。参加学生はセミナー運営に関わるとともに、全員が英語による 10 分間の口演を行い活発な意見交換を行うなど大きな成果を上げている。

学生受入について

外国人学生受入プログラムは、交換留学にもとづく単位認定プログラムと大学院博士課程における学位取得プログラムの二つである。平成 27 年度は、単位認定プログラムのうち、病院実習（4 週間）で神戸大学医学部医学科が 10 大学から計 48 名と多数の外

国人学生を受け入れたのを始め、神戸大学保健学科と大阪大学医学科においてもそれぞれ1大学から各2名を受け入れた。また、神戸大学病院が創設した体系的実習プログラム「Elective Program コース」のホームページを立ち上げ、コンソーシアム構成大学以外の交流協定大学からの学生の応募も可能にしており、今後の事業拡大が期待される。

研究実習においては、神戸大学医学研究科、保健学研究科、及び大阪大学医学研究科にそれぞれ1名を受け入れ、各学生の専門領域の研究室に配属され、実習を通して研究技術の修得に成果を上げている。とくに、受け入れ研究室で行ったテーマが帰国後も共同研究プロジェクトとして継続されている事例があり、注目される。

学位取得プログラムでは、グローバルリーダー育成センターを中心に、すでに受け入れられている3名の外国人学生の生活面と就学面における組織的支援を行い成果を上げている。ガシャマダ大学からの1名は、すでに論文（英語）を発表し保健学博士の学位を取得した。本プログラム第1号の博士の誕生である。

学生交流をさらに実質化するために、神戸大学医学研究科とマヒドン大学の間でダブルディグリー・プログラムの実施に向けたMOUが取り交わされ、同様にガシャマダ大学ともMOU締結に向けた準備が進んでいることも、今後の事業の継続・発展の観点から評価できる。

遠隔授業システムについて

平成24年度にすべての大学に設置・整備された双方向遠隔授業システムが、コンソーシアム運営委員会や大学間大学院学生交流カンファレンスの開催に利用されている他、今回は本プログラム修了学生の追跡調査のためのフォローアップ・インタビューに活用され、事業の成果を評価するために有用な情報が得られた。

その他特筆すべき点

フォローアップ・インタビューにより、派遣学生の英語能力の向上を示す客観的データが得られている。また、派遣学生の中から卒業後の就職先や進学先として国際医療・保健分野関連企業・大学及び大学院を選択したものが多く出現していることが判明した。さらに、受け入れ外国人学生の中からも、神戸大学医学研究科に進学した者や、母国の大学の教員となった者を輩出している。医学保健分野におけるグローバルリーダーの育成を目指す本事業の明確なアウトカムとして評価できる。

事業全体について

平成27年度は事業の5年目にあたり、学生の派遣及び受入、遠隔授業システム活用等全ての面で事業が軌道に乗り定着し、さらに規模拡大が図られるなど、順調に進展している。また、病院全体での体系的実習プログラム「Elective Program コース」を創設し、海外大学とのダブルディグリー・プログラムの実施が計画されるなど、事業期間

終了後の持続可能性及びさらなる充実・実質化を図る取組も行われている。

これには、学長直下に配置された Dean for Foreign Relation（事業責任者）のリーダーシップによるガバナンス体制と、大学病院やグローバルリーダー育成センター等を中心としたマネジメント体制が有効に機能していることが大きく貢献している。

既に、プログラム修了生の英語能力や卒業後の進路選択などの面で、具体的な事業成果（outcome）が表れており、高く評価できる。

本事業の特色は、日本の2大学と ASEAN 5大学がコンソーシアムを形成して次世代リーダーを育成することである。前回の評価書での記載の繰り返しになるが、2大学間交流では行えない交流の新しいモデル（例えば共通のカリキュラムや評価基準に基づき学生がある程度自由に7大学間を往来するようなシステム）が創造できれば、大きな波及効果を持つことになる。今後に期待したい。